

交通輸送技術検討会（第3回）

議事要旨

日時：平成30年10月31日（水） 9：30～11：00

会場：虎ノ門ヒルズ森タワー9階 会議室「TOKYO」

1. 開会

2. 議事に関する主な意見等

（1） 交通輸送技術検討会設置要綱の改正について

意見なし

（2） 東京2020大会における交通マネジメントの検討状況について

○大会輸送影響度マップについて

- ・大会輸送影響度マップはわかりやすく表現されているが、見た人が渋滞を避けて混雑箇所を早めに通過しようとする動きによってピーク時間の前倒しと、集中量の増加も想定されるため、情報の出し方には考慮が必要。
- ・鉄道の大会輸送影響度マップは、湾岸部の企業の立地や通勤の状況などが今後も変わる可能性があるため、一般の方が見て理解しやすいように、丁寧に説明を加えていく必要がある。

○TDMについて

- ・TDM施策をどの程度実施すればよいのかなど、交通量を効果的に低減するための施策を検討することも必要。
- ・交通需要の抑制は、総量よりも特に混雑する箇所がどうなるかが重要なため、重点取組地区、区間で施策を精緻化していくことが必要。その効果として大会関係車両の主要経路が集中する首都高速の交通量が抑制・円滑化された場合に、通常交通状態である一般道路や環状高速道路から交通が転換し効果が減殺されないように、施策の有効な組み合わせ対策を実施する必要がある。
- ・これまでは積上げ型の検討を行ってきたが、目標の達成状態を設定して、これを実現する対策を探っていく方法もある。
- ・大会期間が始まって渋滞してしまった際に、翌日以降打ち出すTDMの次善の策も考えておくことが必要。
- ・企業に対して地図を見せて、どの方面はどの時間帯に利用を控えてほしいのかなど、具体的な

アプローチをするべき。

- ・企業がアクションプランとしてどういうメニューを考えるかを把握するために、いくつかの企業に作成してもらうことが必要。
- ・国民向けのメッセージとして、抑制的に耐えてもらう以外の明るいメッセージが必要。例えば、インパクトのある大企業にTDMをBCP（事業継続計画）のシミュレーションとして捉えてもらい、それを大きくアピールしてもらう等、戦略的な広報を行ったらどうか。また、大会の前後の期間に東京以外の地方に観光客を呼び込むなど、プロモーションのチャンスとするようなことも良いのではないか。
- ・物流のTDM施策は発荷主と着荷主を対象にすることが必要。
- ・時差Bizなどの考え方による取組は物流側にも拡大してほしい。例えば、コピー用紙の事前発注を実施しておけば大会期間中の配送は抑制できる。

○TSMについて

- ・TDMを行っても、高速道路の交通量の低減効果が少ないのであれば、TSMに頼らざるを得ない。TSM施策を強めると、一般車両への影響が大きくなってしまうため、そのような状況はできる限り避けるべき。そのためには、TDM施策の効果をしっかりと出すことが重要である。
- ・関係者間では、TSM施策の必要性を理解しているが、市民の協力機運を醸成することも重要であり、そのためには、早めの準備を行うことが必要である。

(2) 交通輸送技術検討会に係わる今後のスケジュール（案）

意見なし

3. 閉 会